

論理展開を整理しよう

A 言葉は記号である。B 記号だから特定の意味を持っている。C しかし、数学の数式のように記号と意味は1対1対応しているわけではない。D むしろ1つの言葉に対応する意味は複数あるのが当然であると考えてよい。E これが「現代文(特に評論)は難しい」と思われる原因である。F ところが、論理展開を数学のような記号化することができたら、それがわかりやすくなる。G ただし、その記号の用法を覚えられればの話だが。

((A→BしかしC+D)→E)しかし(FただしG)

A 論理トレーニングで大事なのは論理的な文章を数多く読むこと、そして様々な接続表現に注意することである。

B 論理とは言葉と言葉の関係にほかならないが、それを明示するのが接続表現である。

C 「しかし」という接続詞は多くの場合「転換」を示している。

D 「しかし」の前後で主張の方向が変化している可能性が高い。

E 議論の方向を見失わないためには、「しかし」という接続詞に注意することが重要である。

F ときに接続表現は省略されるので、その場合には自分でそれを補って読まなければならない。

A 論理トレーニングで大事なのは論理的な文章を数多く読むこと、そして様々な接続表現に注意することである。

B なぜなら論理とは言葉と言葉の関係にほかならないが、それを明示するのが接続表現である。

C たとえば「しかし」という接続詞は多くの場合「転換」を示している。

D つまり「しかし」の前後で主張の方向が変化している可能性が高い。

E そのため議論の方向を見失わないためには、「しかし」という接続詞に注意することが重要である。

F ただしときに接続表現は省略されるので、その場合には自分でそれを補って読まなければならない。

(A←B)たとえば(C=D→E)ただしF

代表的な接続関係とその表現・記号

解説 A=B

：「すなわち」「つまり」「言い換えれば」「要約すれば」

根拠 A→B A←B(理由と帰結の関係)

：「なぜなら」「というのも」「その理由とは」「それゆえ」「したがって」「だから」「結論として」「つまり」

例示 AたとえばB(具体例を使っての解説、あるいは具体例を使っての根拠付け)

付加 A+B

：「そして」「しかも」「むしろ」

「この本は分厚い。そして難しい」「この本は分厚い。しかも難しい」

「子どもは未熟な大人ではない。むしろ子どもという一つの人格なのだ。」

転換 AしかしB

：「しかし」「だが」

補足 AただしB

：「ただし」「もっとも」

考えてみよう

①次の文の違いは何か？

「この店のラーメンはうまい。しかし高い。」「この店のラーメンはうまい。ただし高い。」

②【?】に何が入るか？

試験の時のカンニングは見つかれば退学、停学などのペナルティを食らう。【?】見つからない限りはやった方が得、やらねば損である。

③次に示した接続語に合わせてA～Fに1文ずつ入れて論理が破綻しない文章を作りなさい(内容自由)。

「A。なぜならB。たとえばC。つまりD。そのためE。ただしF。」